



あまのついでに下もにけと 綱骨のれ 崩明

あまのついでに下もにけと 綱骨のれ 有幸

睨りしつゝ 雲と霧の秋 芝亀

せみやうあらしとあまのついでに 水の上 魯川

あまのついでに 遠くもりの木 権久 カキ 兼紀

朝らとついでに 月をら 白きあけ 暎 箕風

中々巾門開換〜〜〜
糸サクラの井 夢又覺

子承傳よ唱て野路サクラの井 富春

那き〜〜〜
馬田

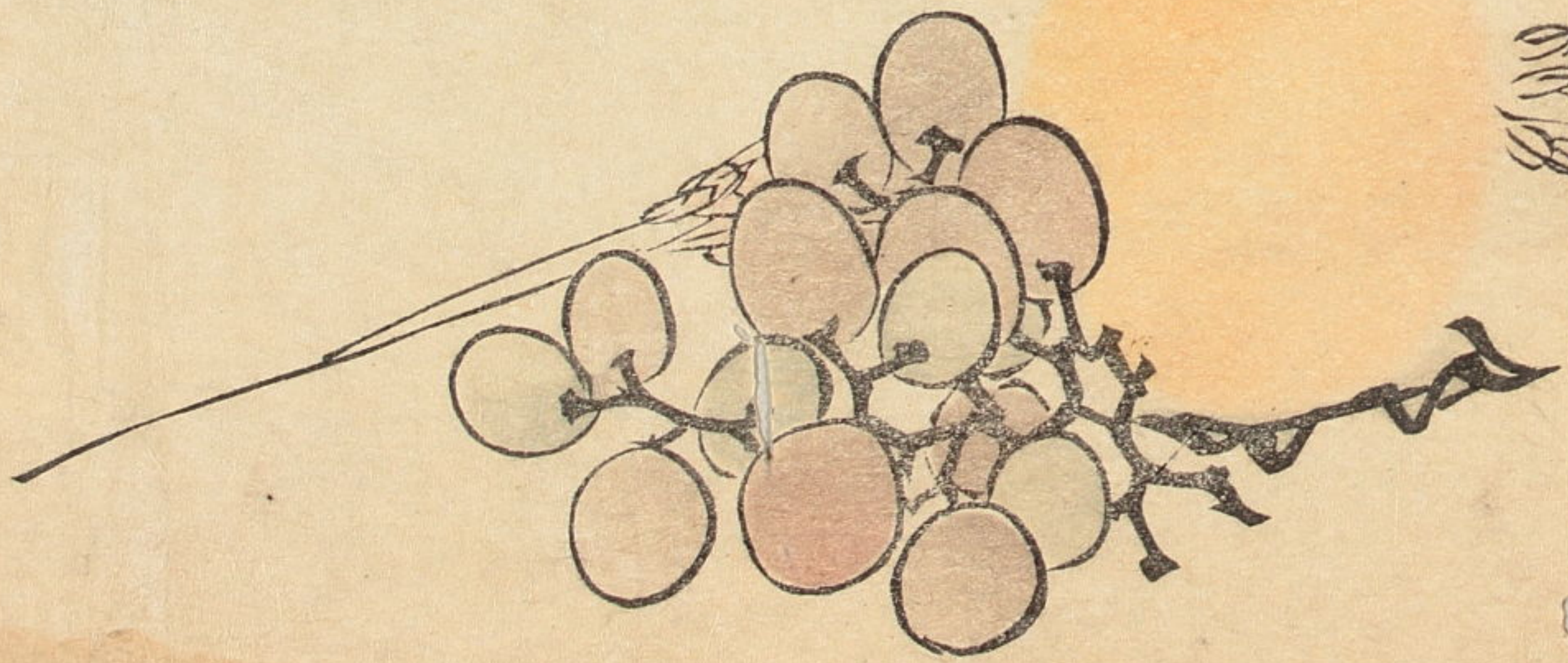
〜〜〜
鳥子サカひき 句龍



小歌のふりし 竹雅

〜〜〜
結サクラの井

〜〜〜
山吹花





照くす神てよれを魂あうそく
梅岳

姨むら内の子あもてかき中
室丸

これ籠の世にをりほ名のき書
え々大フリ

る海をまきつるあふ
二のあ

はたてしむらわたりうきあけ
る見

はるかれ名をさるるあふ
さの春

釣をてあうけと真つとあね
完八百廟

今もあけおの東せり
洛
芳三

待雪巾納子きゆらかみ立俵本 葛玖

人の気さき丸く成るる名の新水

川つゝささめあもやうの月と船 里喬

名もつらもつ可恨なから毎一止

名身や樹しきあゝに咲せたる 蟻兄

宗なるを愛む桂もつらも中 挑江

桜もつと輝の這あのもたを成 章花

那る鳥もつとやぬひるの月とを必 有寺

むれ鳥もつと羽音に伝へるる鳥扇

陽なき夜をさすものありをかし
かたじけなくわかれ

松の葉もつとやぬてふあふれなるとれ 馬田江



嬉うれ々々何なに留と春はる来
 啼なききよよ海うみのなきき

白しろ雲ぐもよよ空そらににかかるる 春はる鶴
 ののかかのの形かたち

舟ふねののささののききににゆゆて 鴉カラス喋しゃべ

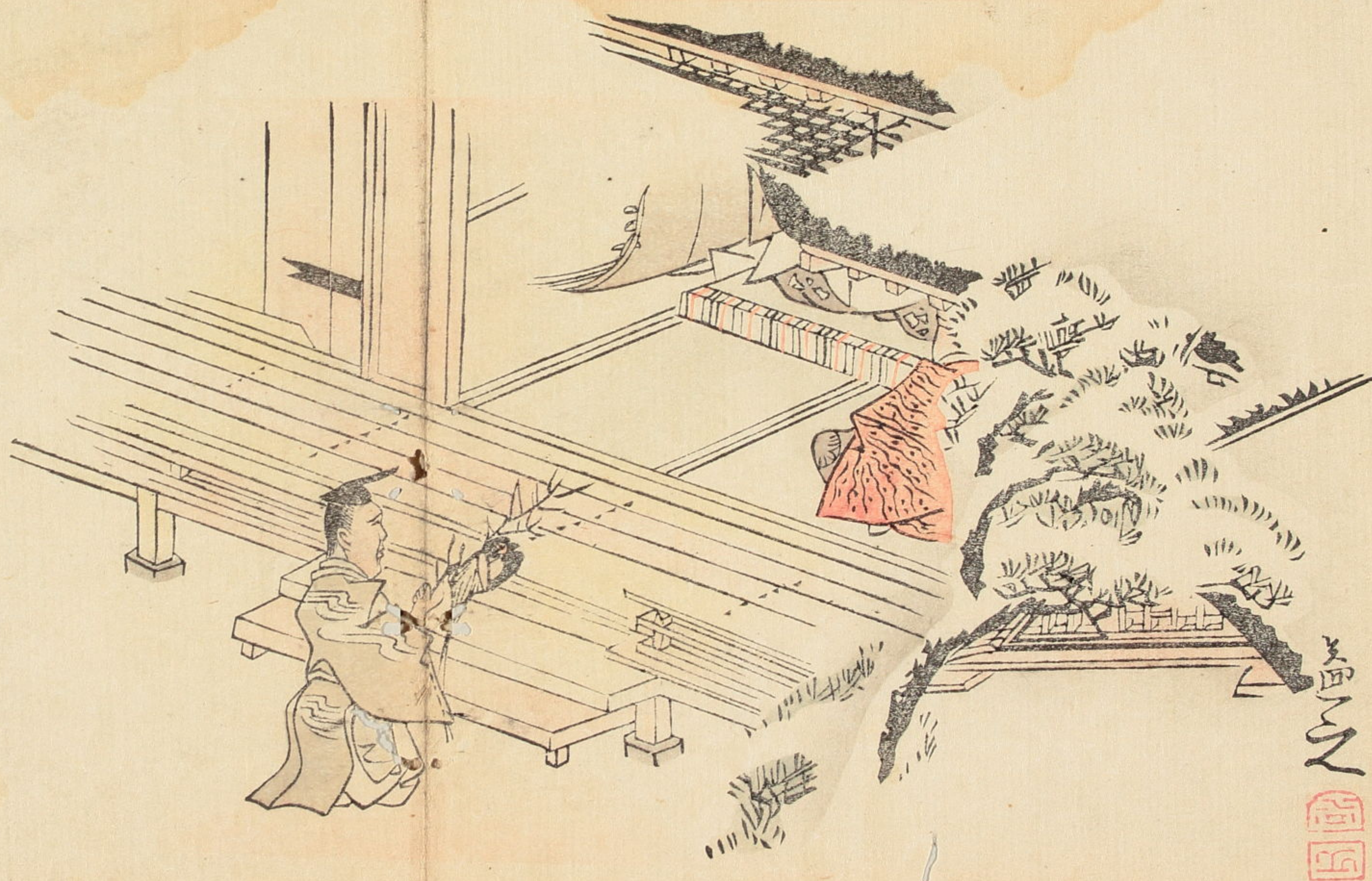
志こころののああののおおののこころろにに 竹タケ里り

山やま科かののおおのの海うみののああののこころろにに 正ただ水みづ

秋あきののたたののかかののああののこころろにに 蟻アリ兄にい

那なののああののこころろにに 秋あきののたたののききにに 蟻アリ丸まる

海うみののああののこころろにに 津つ市し神かみ馬まののああののこころろにに 後うしろ 君きみ推おし



善之
 印

接投乃亦平何一巾以き世茶 竹園

寒臥巾兔の潜れき白カウヤ 君推

福中江浦の口あり巾ありとれオカイ 白旗

己す然一も管をたありは物しと共 春來

柳のついでに

花の香をいかにかきとるの庭 菊箱

さくらをいかにかきとるの庭 鴉味

さくらをいかにかきとるの庭 三時人

毎日の雪をいかにかきとるの庭 弁三

雪の香をいかにかきとるの庭 万和

さくらをいかにかきとるの庭 雁鳥

さくらをいかにかきとるの庭 木俣

お山のついでに 松尾 奇淵

お山のついでに 天年

静かなる 柳のついでに 銀柳

お山のついでに 井 非随

さくらをいかにかきとるの庭 梅啓

静かなる 夜園の香をいかにかきとるの庭 二海堂

さくらをいかにかきとるの庭 竹森

さくらをいかにかきとるの庭 馬田

鶏城如

此の如くは、
此の如くは、

此の如くは、

此の如くは、

此の如くは、

此の如くは、

此の如くは、

此の如くは、

